

庁内におけるデジタル人材の育成（案）たたき台について

新型コロナウイルス感染症の流行による「新たな日常」は、ICTが県民生活や経済活動の維持に必要不可欠と認識する契機となり、様々な領域においてデジタル化の波が押し寄せています。

こうした状況において、庁内のDXを推進するためには、デジタル変革を効果的に推進する組織体制の整備とともに、推進する人材の育成・確保が必要不可欠です。

そこで、庁内において、デジタル技術の活用を主体的に行い、「業務効率化」および「行政サービスの向上」を図るとともに、「働き方改革」にも資する人材の育成を進めていきます。

1 人材育成の方向性

- (1) 多岐にわたる県の業務において、DXを進めていくため、業務をよく知る担当職員が業務効率化や行政サービス向上の取組を自律的に推進できる体制づくりをめざす。
- (2) それぞれの部署に適したDXや働き方改革を推進するため、デジタル技術を主体的に活用できるDX推進チャレンジャーを育成する。

2 スケジュール

令和4年3月下旬～	職員アンケートの実施（デジタルスキル等の現状調査）
令和4年4月下旬～	滋賀県職員デジタル人材育成計画の策定
令和4年5月上旬～	DX推進チャレンジャーの募集（約150人）
令和4年6月～9月	DX推進チャレンジャー研修の実施
令和4年10月～	各所属における業務効率化の取組の実践、DX推進コミュニティの開催

3 経営会議で、特に論議いただきたい事項

- (1) 研修実施方針について ～実効性を高めるために～
 - ア OJTを原則としたい。（①研修受講→②各所属でのDX取組・試行（随時、情報政策課での相談対応支援・他の必要な研修受講）→③取組等実施）
 - イ 各所属のDX取組の実施者として、出来れば事務分掌に位置付けてもらえるとう有難い。
 - ウ 意欲のある職員・チャレンジ精神旺盛な職員の参加について、特段の御配慮をお願いしたい。
 - エ どんな支援が必要か。（職員による相談対応、専門人材の派遣、月1回のDX推進コミュニティ等）
 - オ 研修内容は十分か。（庁内のデジタルスキルの現状は、職員アンケートで把握予定）
- (2) 目標の設定について
 - ア DX推進チャレンジャーの育成 3年間450人
(一般行政部門等の職員約3,600人の10～15%相当)
 - イ システムの内製化 3年間100件

4 研修計画（案）

以下に示すのは、令和4年度の研修計画（案）であり、最終的な研修内容については公募型プロポーザルにより決定する予定です。

(1) 階層別マインドセット研修

それぞれの階層に必要な、自らの業務をよりよいものに変革していくというマインドセット（意識改革）を習得するための研修

（実施予定時期：5月～6月）

階層	時間	形式	備考
幹部職員	半日	ワークショップ	特別職・部長級・次長級
管理職	半日	ウェビナー等	所属長等
情報担当職員 データ利活用職員 DX推進チャレンジャー	半日	ウェビナー等	
一般職員	－	eラーニング（動画視聴）	

(2) DX推進チャレンジャー研修

所属長等とともに現場でのデジタル技術活用の推進役であるDX推進チャレンジャーを主な対象とした専門研修

（実施予定時期：6月～9月）

研修	時間	人数	形式	備考
RPA（基本）	1日	150	ハンズオン（実習形式）	
ローコードツール（基本）	1日	150	ハンズオン（実習形式）	
AI活用等（基本）	半日	150	ウェビナー等	
Excel VBA（基本）	1日	50	ハンズオン（実習形式）	希望者のみ
Excel VBA（応用）	1日	50	ハンズオン（実習形式）	希望者のみ

※その他の研修（候補）

研修	時間	人数	形式	備考
（Access（基本））	1日	50	ハンズオン（実習形式）	希望者のみ
（AI・RPA（実践））	1日	50	ハンズオン（実習形式）	希望者のみ
（情報処理全般）	2日	100	ウェビナー等	希望者のみ
（BPR（業務改革））	半日	150	ウェビナー等	
（デザイン思考）	半日	100	ウェビナー等	希望者のみ

(3) 外部専門研修

情報担当職員、データ利活用職員を主な対象とし、専門スキルを習得するための必要な研修を受講します。各情報担当職員等の担当業務の役割や、それぞれの能力、受講希望等を勘案し、受講する研修を決定します。

◆想定している研修の具体例

研修	時間	形式	備考
サーバ基盤設計・構築	2日	ハンズオン（実習形式）	
ネットワーク設計・構築	2日	ハンズオン（実習形式）	
クラウドシステム	1日	ハンズオン（実習形式）	
情報システム調達	1日	eラーニング（動画視聴）等	
情報セキュリティ	1日	eラーニング（動画視聴）等	
データベース	2日	ハンズオン（実習形式）	
データ利活用関連スキル（プログラミング、BI ツール）	2日	ハンズオン（実習形式）	

庁内におけるデジタル人材の育成(案)たたき台

1 策定の背景

庁内のDXを推進するためには、デジタル変革を効果的に推進する組織体制の整備とともに、推進する人材の育成・確保が必要不可欠である。

そこで、庁内において、デジタル技術の活用を主体的に行い、「業務効率化」および「行政サービスの向上」を図るとともに、「働き方改革」にも資する人材の育成を進めていく。

2 人材育成の方向性

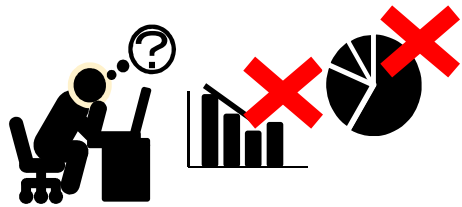
- (1) 多岐にわたる県の業務において、DXを進めていくため、業務をよく知る担当職員が業務効率化や行政サービス向上の取組を自律的に推進できる体制づくりをめざす。
- (2) それぞれの部署に適したDXや働き方改革を推進するため、デジタル技術を主体的に活用できるDX推進チャレンジャーを育成する。

3 目指すべき姿

令和4年度から令和6年度までの3年間で、一般行政部門等の職員の10～15%にあたる**450人のDX推進チャレンジャー**を育成し、庁内におけるDXを強力に進めていく。

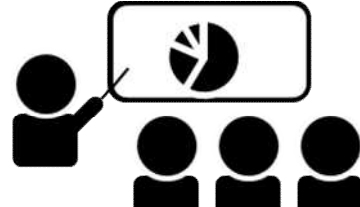
【現状と課題】

- ・デジタル人材がシステム部門に偏在
- ・庁内のデジタル人材の不足



【目指すべき姿】(令和6年度)

- ・全所属にデジタル人材が存在
- ・庁内のDX推進体制を構築



【目標】内製化したシステム数 100件
(マクロを含む)

4 求められる人材像

- ◆ **幹部・管理職** (課長級以上・所属長)
 - ・組織(所属)におけるDX推進の責任者としてリーダーシップを発揮し、プロジェクトを推進する。
- ◆ **DX推進チャレンジャー** (意欲の高い職員 ※職階の指定はなし)
 - ・所属における現状業務の可視化および業務分析を行う。
 - ・情報担当部門等と連携し、内製化を含めたデジタルツール等の効果的な活用を図る。
- ◆ **一般職員**
 - ・基本的なICTツールを的確に扱え、日ごろの業務に活かす。
- ◆ **情報担当職員** (情報政策課職員・基幹システム担当職員)
 - ・DX推進チャレンジャーと連携し、デジタルツール等の効果的な活用を技術的にサポートする。
 - ・DX推進のための必要な基盤を整備する。
 - ・外部専門人材と連携する。
- ◆ **データ利活用職員** (データサイエンティスト職員 等)
 - ・庁内の施策立案・構築につながるデータ分析を行い、EBPMを推進する。

- ・ **全職員**がDXの基本的な知識を有し、基本的なICTツールを使いこなす
- ・ デジタル技術の主体的な活用ができる **DX推進チャレンジャー**を育成
- ・ **情報担当職員等**は、より専門的な立場から各所属のDXの推進を支援

5 DX推進体制

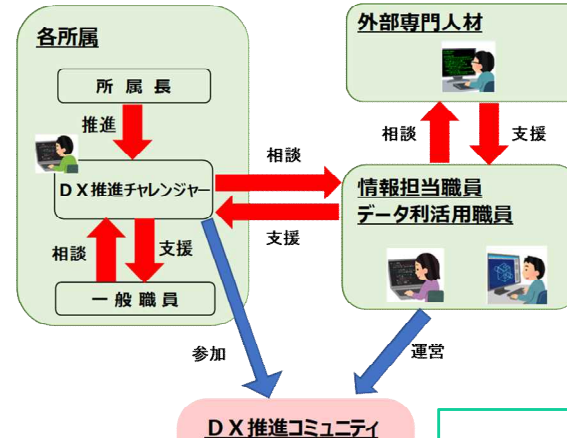
◆外部専門人材の活用

- ・RPAのシナリオ開発
- ・ローコードツールのアプリ開発

◆DX推進コミュニティの設置

- DX推進チャレンジャーと情報担当職員等が集まるコミュニティ
- ・定期的な勉強会の開催
- ・業務改革等の好事例の横展開

DX推進体制イメージ



全庁の各部署が
自律的・継続的に庁内のDX
を推進できる体制を構築

◆職員同士が学びあう場

- ・デジタル技術のスキルアップ
- ・他所属等の好事例を横展開

6 研修計画

◆階層別マインドセット研修 (5月～6月)

- ・それぞれの階層に必要なマインドセットを習得するための研修

◆DX推進チャレンジャー研修 (6月～9月)

- ・DX推進チャレンジャーを主な対象とした専門研修
(例)Excel/VBA、RPA、ローコードツール 等

◆外部専門研修

- ・情報担当職員、データ利活用職員を主な対象とした外部専門研修
(例)サーバ・ネットワーク構築、情報システム調達、データ利活用関連スキル(プログラミング、BIツール) 等